

【配点】 ①・②・③ 各1点×30 ④⑥・⑤④・⑥③ 各6点×3 その他各4点×13

1

16	11	6	1
ていさい	務め	署名	故障
17	12	7	2
けびよう	単純	宇宙	操作
18	13	8	3
じょうじゆ	数値	敬う	備える
19	14	9	4
せんげん	精進	方針	清算
20	15	10	5
げんせん	とうじ	貧しい	忠告

2

1	イ
2	イ
3	×
4	ウ
5	ア

3

1	S
2	S
3	K
4	K
5	×

4

1	ウ
2	絶
3	ち
4	今度こ
5	イ
6	今夜

5

1	エ
2	イ
3	ア
4	ウ
5	イ・オ
6	×
7	太陽
8	燃
9	や

6

1	ある	程度	大きい	いう	えに	、	丈夫	でし
2	な	やか	かで	水を	通	さ	ない	から
3	な	やか	で	水を	通	さ	ない	から
4	ある	程度	大きい	いう	えに	、	丈夫	でし
5	な	やか	かで	水を	通	さ	ない	から
6	な	やか	で	水を	通	さ	ない	から

5

1	人
2	収

6

I	漢語
II	日常
母	母

3 同じ文字数で、かたちが違うだけなので、どちらかひとつあれば十分 (だから。)

4

I	三種
ある	ある
II	三種
いる	いる
5	試行

1 (漢字)

漢字は機械的にその字を練習するというだけでなく、読みや意味にまで気を配って取り組んでほしい。その時だけ覚えて終わりにしているようでは、学習としては質の低いものになってしまう。日々の生活の中で自身が使いこなせるように取り組みをしていこう。

2 (主語)

主語を問う問題だが、解く手順としては文をしめくくる働きを持つ文節である述語をさがすことから始めたい。4のように倒置法が使われていて述語が文の終わりにこない場合もあるので注意しよう。また、主語は「名詞十が／は／も」で表されることが多く、「名詞十を／に／と／で／へ」では表されないこともあわせて覚えておこう。

3 (敬語)

尊敬語は目上の、または相手側の人やものに対して使うものであり、謙譲語は自分側の人やものに対して使うものであるということは覚えておかななくてはならない。そして、それらを表すための「おくになる／くれる／られる」・「おくする」といった形や、いわゆる特別表現を使えるようにしておくべきである。また、丁寧語の「です／ます／ございます」ももちろん覚えておこう。

4

1 直前に「しのびこみ」とあることや、父の書齋「を」につながる表現を考えていけば容易であろう。また、書齋に入り様々なものにふれることができるときの「私」の心情もイメージしよう。

2 「おそろしき」とあるところから見当をつけたい。(二)の心情を表したことはをさがそう。

3 「見こみ」とは未来に対する予想のことである。「その点で」というところにも注目して、押花について「私」が立てていた予想が書かれているところをさがせば良い。

4 父が大切にしている辞書を傷つけてしまい、どうすれば良いか困っていたところに解決策(らしき)考えがうかんできたのである。すぐさま「その考え」を実行に移しているところからも答えは決まるだろう。ウは「救われ」ただけでは不適當である。

5 設問の要求を正しくつかみたい。——線をふくむ一文は答えにならず、「最初」にうかんだ考えをさがさなければならぬことに注意しよう。この場合の「最初」とは、善後策について考えているところである。

6 そもそも辞書で押花を作ろうと考え、今の事態を引き起こしたのは「私」自身なのであるが、ここで幼い「私」は花びらに責任転嫁しているのである。

5

1 それぞれが修飾することばや、前後の文脈をふまえて考えよう。また、確実に決まるところからうめていきたい。1は最近ではめつたに見かけない↓昔はいろいろなものを作った(↓よく見かけた)という流れ。2は日本の伝統的な傘は竹の骨↓柄

はもちろん竹製となり、いろいろなものを竹で作っていたというこの段落の話題とも合う。3は昔の思い出を、いまでも「はつきり」覚えている、という流れ。4は「掘り出して」や「大量に」につなげやすい表現を選べばよい。

2 「中ががらんどろ」であるという特徴を生かしたものと、そうでないものに分ける。それぞれイメージすることができたか。イとオについては「がらんどろ」である点を生かしてはいない。

3 なぜ「理想的」なのかは——線をふくむ一文に書かれていた。あとは指定された字数に合う表現をさがせば良いだろう。日ごろから「解く手順」を意識していきたい。

4 ——線をふくむ一文に、「竹の皮」を「様々な用途に使う」理由が書かれている。指定字数におさめるために、「長さが四十七センチ、幅が二十センチ以上にもなり」という表現を抽象的なことばでまとめる工夫が求められる。

5 指定された字数のみにたよって回答は見つからない。植物が増えることはどういふことにつながるのか、筆者はなぜ植物を増やすべきだと考えているのかを読み取りたい。

6

1 (サクラ)の場合が問われているので、「漫画」「まんが」「マンガ」という表記がそれぞれ存在するのと同じように異なる使い方やニュアンスがあるという話を、同ページ後半にある(サクラ)についての段落からさがす。

2 実質的にはことばの知識の設問である。「母語」ということばを覚えておこう。

3 ◎の文を参考にして、同段落からことばを利用する。——線◎の文の直前には接続詞が入っていないが、「だから」を入れることができるようなつながりになっていることを感じながら通読できるとよい。

4 筆者の考える「この国の言葉の実態」なので、「XではなくY」という言い回しのYの部分に答えにすればよい。多くの人が考えがちな常識的な見方に異議を唱えるような文章では頻出の言い回しである。

5 ——線◎に至る二段落分をまとめればよい。◎の文がそれをしているので、いろいろな工夫をしていることを表すことばをぬきだせば答えになる。